

演題番号 小学校高学年児童のストレス対処力 (SOC) に影響を及ぼす ソーシャルサポート源と内容

ほうとうげしゅうこ たけだふみ あさぬまとおる もんまたかふみ ふじはらあいこ きだはるよ こうだやすこ
○朴 峠 周子¹⁾, 武田文²⁾, 浅沼 徹²⁾, 門間貴史³⁾, 藤原愛子²⁾, 木田春代²⁾, 香田泰子²⁾

1) 人間総合科学大学 人間科学部 人間科学科 2) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
ヒューマン・ケア科学専攻 3) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育学専攻

【背景】 小学校高学年児童の精神健康を維持・増進するストレス対処力「首尾一貫感覚 (Sense of Coherence : SOC)」は、1年間の縦断的検討により豊富なソーシャルサポートによって高くなることが実証され、1・2 学期時点でのソーシャルサポートの重要性が示唆されている。しかしながら、具体的なソーシャルサポート源および内容については明らかにされていない。

【目的】 本研究では、小学校高学年期の1年間において、1・2 学期時点でのどのようなソーシャルサポート源と内容がその後の SOC に好ましい影響を及ぼすかを明らかにする。

【方法】 神奈川県内近郊の公立 A 小学校に通う4~6 年生全児童 403 名を対象とし、2009 年度の1~3 学期に、無記名自記式の調査票を用いた縦断調査を実施した。

調査項目は、SOC 尺度 (13 項目 5 件法 : 得点が高いほどストレス対処力が高いことを表す) と、ソーシャルサポート 20 項目とした。ソーシャルサポートは、父親・母親・先生・友だちそれぞれについて、「①あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる」「②あなたが悩みや不満を言っても、いやな顔をしないで聞いてくれる」「③あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる」「④ふだんから、あなたの気持ちをよくわかってきている」「⑤あなたが何か悩んでいる時に、どうしたらよいか教えてくれる」の5 項目に4 件法で回答を求め、回答は [受けている / 受けていない] に2 群化した。

各調査で得られた回答のうち、2・3 学期の SOC、1・2 学期のソーシャルサポート項目への回答が完全であった 268 名 (有効回答率 66.5%) を分析対象とした。まず、1 学期のソーシャルサポート 20 項目を独立変数とし、2・3 学期の SOC 得点それぞれを従属変数とする重回帰分析を行った。次に、2 学期のソーシャルサポート項目を独立変数とし、3 学期の SOC 得点を従属変数とする重回帰分析を行った。

【結果】 2 学期の SOC 得点に有意な関連がみられた 1 学期のソーシャルサポート項目は、友だちの② ($\beta=0.166$)・友だちの④ ($\beta=0.148$)・先生の② ($\beta=0.128$) であった。

また、3 学期の SOC 得点に有意な関連がみられた 1 学期のソーシャルサポート項目は、友だちの① ($\beta=0.174$)・友だちの② ($\beta=0.153$)・先生の④ ($\beta=0.122$)、2 学期のソーシャルサポート項目は、友だちの① ($\beta=0.221$)・先生の③ ($\beta=0.178$)・父親の④ ($\beta=0.163$) であった。

【結論】 小学校高学年期の1年間では、1 学期の先生からの情緒的サポート、1・2 学期の友だちからの情緒的サポート、また、2 学期の先生からの手段的サポートと父親からの情緒的サポートが、その後のストレス対処力 (SOC) に好ましい影響を及ぼすと考えられた。一方、母親からのソーシャルサポートについては、有意な影響が認められなかった。

連絡先 : shuko_hotoge@yahoo.co.jp (朴峠周子)